

一般大衆における仏教信仰の一側面

—天台宗寺院における参拝
および写経からみえるもの—

中尾将大

(大阪大谷大学 非常勤講師)

多様化する現代社会

- 現代社会は環境が整っている
→ 日常生活を送る上でも社会活動を行う上でも情報や選択筋が多い
- そのような環境下で現代人は「自己の目標実現」に向けて日々努力し、行動している
(例) 就職活動、ボランティア活動、労働、婚活など
- 自ら環境に積極的に働きかけることで自らの置かれている環境、状況を快適なものにしようと努力
(環境への適応)

- しかし、常に自身の方略が功を奏し、うまく環境に適応できるわけではない
 - 物事はいつも自分の思い通りに行くとは限らない
(一切皆苦)
- このような状況が長引くと最悪の場合・・・
 - うつ、自死、他者や社会への攻撃行動へと陥ってしまいかも知れない
- そのような状況を回避する一つ的手段として・・・

- 自己を越えた「仏との対話・交流」があるのでは？
(例：座禅、念仏、写経、仏閣への参拝)
- 自力ではどうにもならない事象を私の思量を超えた
仏智に託すことで精神的安寧を得る(無量寿経)
- 本発表では天台宗寺院における一般参拝客にみら
れる「写経」を通じて一般大衆の信仰形態について
考察を試みる
→ 主に写経に書かれた「願い事」の分析を行った

写経とは

- まだ印刷技術がなかった時代に僧侶達が教えを学ぶためにひとつの教典を自分で書き写すことであった
- または熱心な信仰心を具体的な形にすることでもあった
- 写経を年単位で継続することで心理的効果がみられる(中尾・井上,2009,2010)
→人間関係の改善、精神的安定の獲得、苦の解決

方法

- **調査日** 2009年3月1日 14時～15時
- **調査場所** 京都市左京区大原にある天台宗寺院
魚山 来迎院
- **調査対象者** 2008年1月から2009年2月までに来迎院にて
写経をされた方々33名(男性9名、女性24名 年齢は不詳)
- **出身地の解析**には2001年1月から2009年2月までに来迎院
にて写経をされた方々214名(男性67名、女性147名 年齢
は不詳)であった
- **調査方法** 写経そのものを拝見し、最後に書かれてある写
経日、願い事、性別を記述した。合わせて、写経者の記帳本
を元に彼らの在住している都道府県を特定し、男女別に人
数を計測した



—京都・大原—

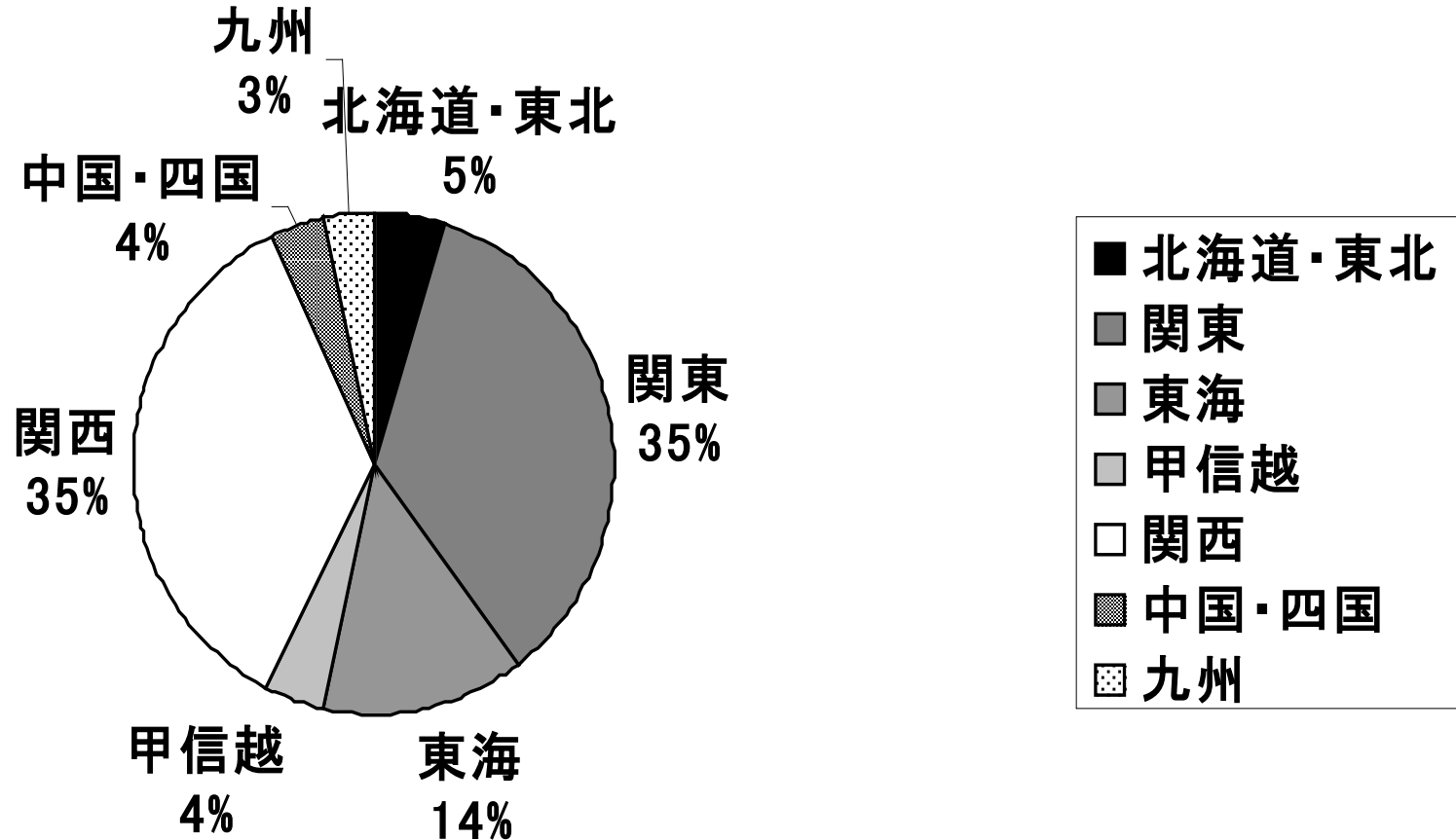
来迎院

寺院の環境

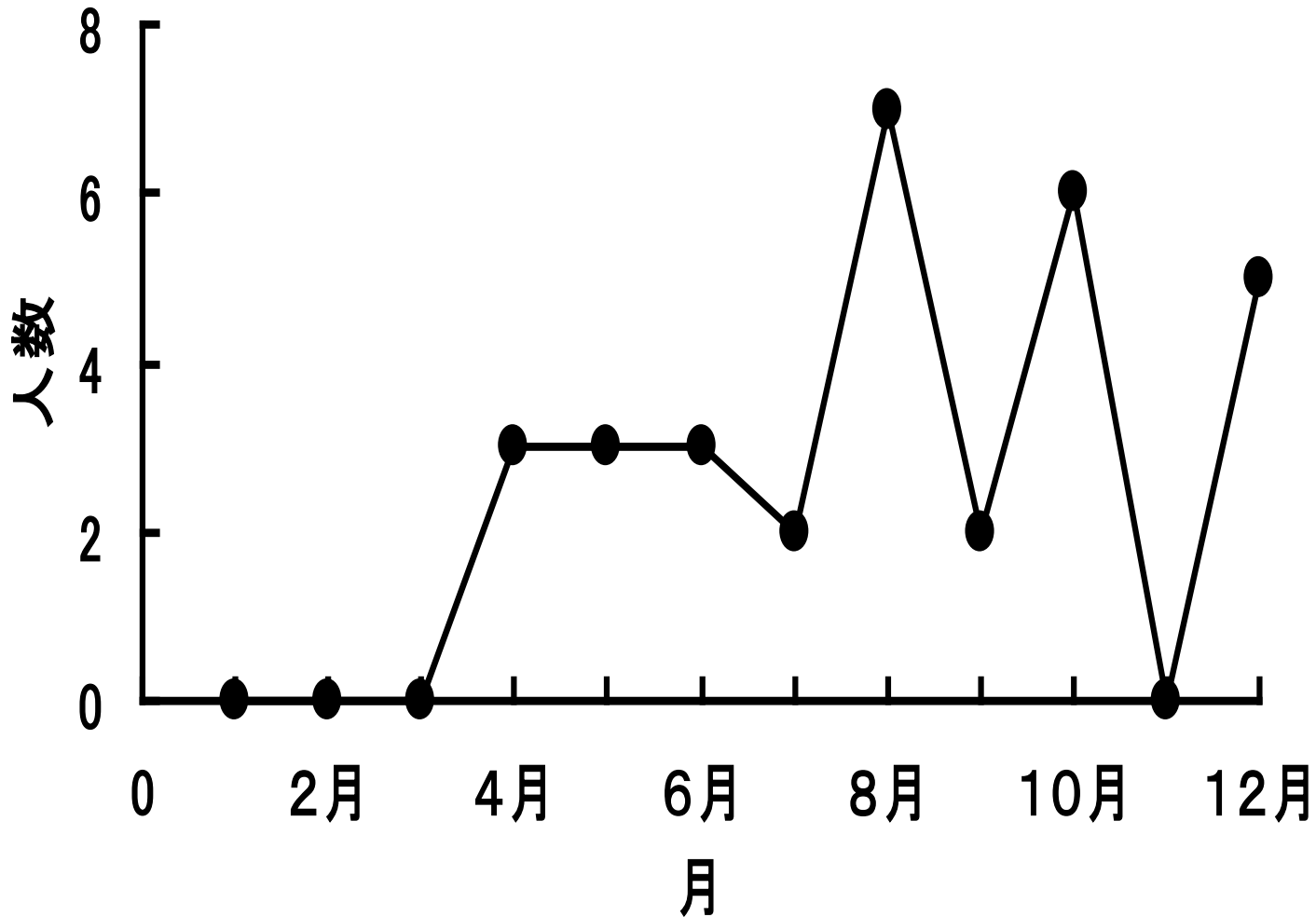
- 三千院となりの細い山道を登る
 - 看板がなければ誰も気が付かない
 - 人里離れた寺院
 - 本堂には平安時代末期の薬師三尊像が安置
 - 都会の喧騒を離れた別天地
 - 緑に囲まれ、ひんやりとした空気が漂う
- 参拝者にとって「非日常的空間」といえる

結果

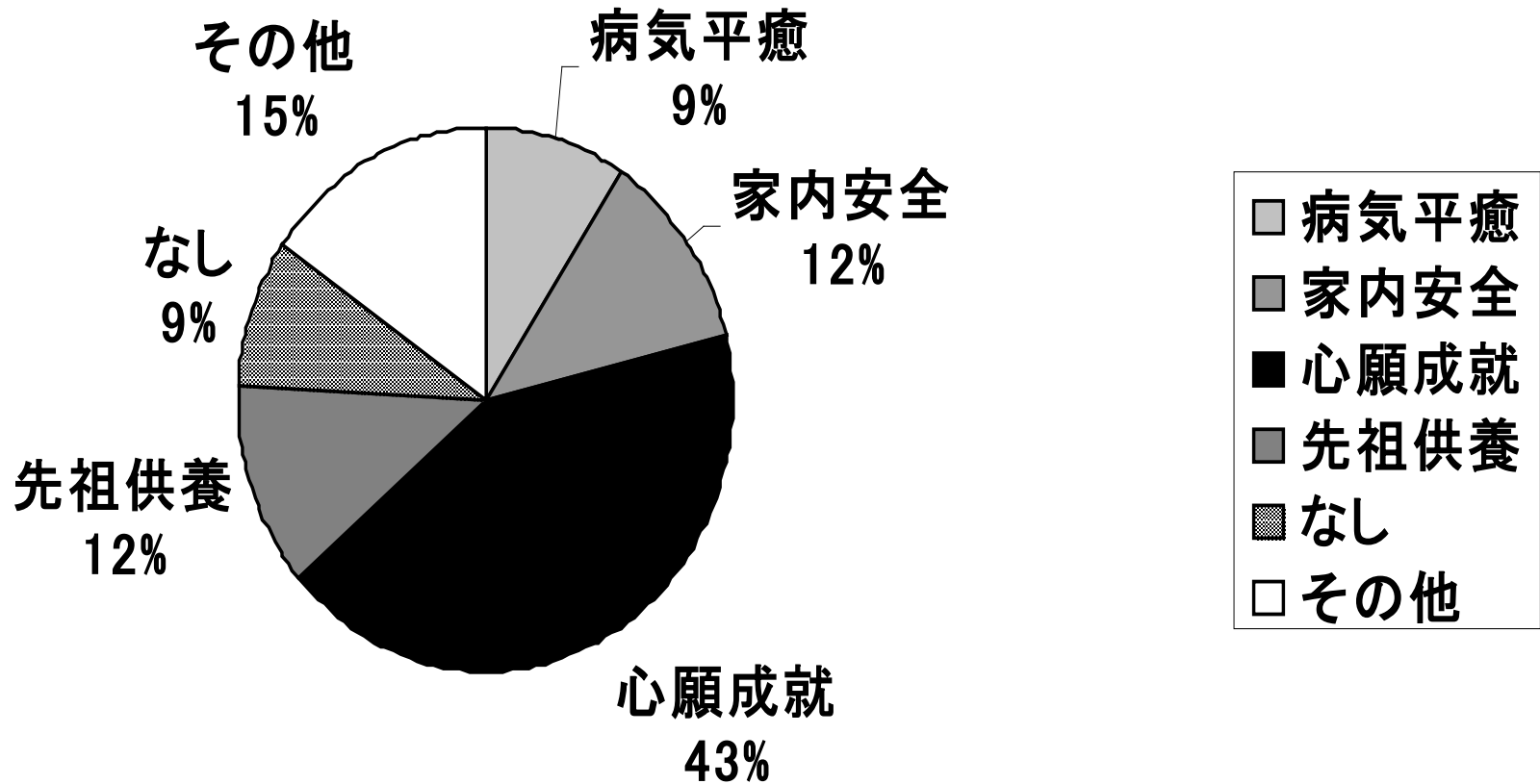
写経者（出身地域：2001年～2009年2月）



写経者の人数(2008年度 時系列)



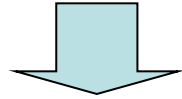
願い事(2008年～2009年2月)



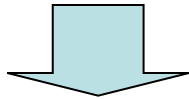
考察

☆写経に向かう参拝者の姿

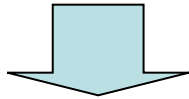
①参拝者の多くは都心部に在住



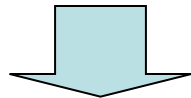
②行楽の時期に来迎院に訪れた



③寺院内の非日常的な空間に身を置く



④日常生活において抱く「ままにならぬ事柄」あるいは「悩み」と向き合う(自己を客観視)

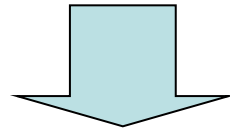


⑤写経に願いを託して仏と交流し、日常の「苦」の解決を願う

- 都心部で便利で快適な生活を行っている方々が
- 「寺院」という非日常的環境に身を置き、悩みや自分を客観視し、その意味を見出す
→それがそのまま「仏からの呼びかけ」となるのでは？
- 「仏の智慧の働き」、「救いの働き」を感じられているのかもしれない
- 「悩みや苦の解決」という願いを託して写経を行う
- 彼らは精神的安寧を得て、また日常の環境に戻る
- 日常生活や抱える苦悩に対してより積極的に取り組めるようになるのでは？

* 参拝者は写経をしたからといって直ちに願いがかなったり、苦悩が解決するとは思っていないのではないか（解決に向けてのきっかけ）

- 仏の救いの働きが現代人の「人生を後押しする」ということになるのではないか



- 最終的には仏の智慧の働きに全てを託して、あるがままに生きることが出来れば自然と苦悩が解決され、人は苦しみから解放され、幸福な人生を歩めるのではないか？
（自然法爾）



ご清聴ありがとうございました